

# 鹿児島県立隼人工業高等学校

## 新時代を切り拓く地域融合型人材育成プロジェクト

### ～ コンソーシアムパーク隼人 ～

#### 1 学校の概要

昭和23年に隼人町立定時制課程鹿児島県隼人高等学校として発足，その後下記のとおり幾多変遷をへて昭和63年に現在の鹿児島県立隼人工業高等学校インテリア科・電子機械科・情報技術科の3学科となった。

項目	日付	普通	建築	工芸	農芸	家庭	機械	情報
町立青年学校跡地(現弓道場西側)に隼人町立定時制課程 <b>鹿児島県隼人高等学校発足</b> (本校, 吉松・栗野・横川・日当山教場)	S23 1948 3.31	普通科本科 4年	建築科別科 2年	木材工芸科別科 2年	農芸科別科 2年	家庭科別科 2年		
日当山教場を本校に合併3.31 旧隼人中に移転, 本校生施工8.24 9月仮校舎移転, 3月校地拡張(PT生徒施工)	S24							
<b>建築・木材工芸の本科認可 農芸廃止</b> 吉松・横川教場が分校に昇格	S25 4.1			建築科本科	木材工芸科本科			
本校が県立になる。 <b>栗野教場が栗野高校</b> として独立し吉松・横川教場がその分校になる	S26 4.1							
鹿児島県立 <b>隼人高等学校</b> と改称 家庭科を本科前期家庭科へ切替	S31 4.1					前期家庭科		
普通科を夜間部に切替	S32 3.31			木材工芸		前期家庭科		
木材工芸を工芸科に改名	S35 4.1	夜間部 普通科		工芸				
鹿児島県立 <b>隼人工業高等学校</b> と改称。 <b>普通・前期家庭募集停止</b> 工芸を産業工芸科と改名 昼夜間部に機械科新設	S37 1962 4.1		建築科	産業工芸科			機械科昼夜間部	
夜間部機械科募集停止 プール竣工 <sup>6.11</sup>	S41 4.1							機械昼間部
本年度入学生より <b>全日制</b> に切替 定時制課程募集停止	S42 1967 4.1						機械科	
グラウンド <sup>*</sup> (国体ハンドボール会場)・本館3・4F竣工, 体育館竣工 <sup>S47.5.15</sup>	S46 3.31		建築科	産業工芸				
産業工芸をインテリア科と改名	S48 4.1							
建築科募集停止, 普通科新設	S51 4.1	普通科		インテリア科				
普通・機械科募集停止	S63 3.31							
電子機械科・情報技術科新設 <b>現在の設置学科</b> となる	S63 1988 4.1						電子機械科	情報技術科
プール新設H10.3.25, 本館改修工事完了H22.2.17, 武道館改修工事完了H23.3.12, 体育館改修工事完了H29.2.8 創立70周年記念式典H30.11.10								

生徒数はインテリア科108名，電子機械科198名，情報技術科103名，計409名（令和6年5月1日現在）工業科単科の中規模校である。霧島市，始良市，湧水町の他にも伊佐市，鹿児島市，垂水市，曾於市など広い範囲から通学をしている。

学年 \ 学科	インテリア科	電子機械科		情報技術科	合計	
		1組	2組		学級数	生徒数
1年	37	40	40	40	4	157
2年	38	32	30	38	4	138
3年	33	28	28	25	4	114
合計	108	198		103	12	409

校訓の至誠・自律・友愛の精神を尊重し、「ものづくり」「キャリアづくり」「人づくり」のスローガンのもと各学科の特色を生かして社会に貢献できる工業技術を修得し，体験的に学ぶ姿勢，確かな学力と資格取得等で自己実現を図る能力を育て，健やかで礼儀正しく，創造性のある意欲的な生徒の育成を目標としており，卒業生は1万千人を超え，県内外で活躍する人材を輩出してきた。

また，霧島市は「国分隼人テクノポリス」から発展した「高度技術産業集積地域」として指定され，大手IC関連製造企業等のハイテク企業が数多く進出している。本校はそのような地の利を生かし，県内就職割合が高い。

## 2 事業の概要

### (1) 事業のねらいや目標

ICTの進展やSociety5.0の到来，グローバル化の更なる進行などにより，かつてないスピードで変化する社会環境に伴い，地域産業を支える職業人材育成には，産業界で直接的に学ぶことができる環境や機会が必要である。霧島市には多くの学校，企業が集積しており，その特性を生かし行政と教育機関，産業界を中心とした産学官の連携・協働により，地域社会と一体となった魅力ある高校づくりに取り組むことで，専門的職業人を育成し，活力のある地域づくりや郷土への誇りや愛着を醸成し，その良さを発信できる人材を育成する。

### (2) 育成する人材像

ア 予測困難な時代においても，社会の急激な変化に耐えうることができ，目の前の状況から解決しなければならない課題を見つけ，自分で考え，解決策を見いだす資質と能力を備えている人材。

イ 郷土に誇りや愛着を持ち，その魅力を発信でき，地域の持続的な成長を支えることができる人材。

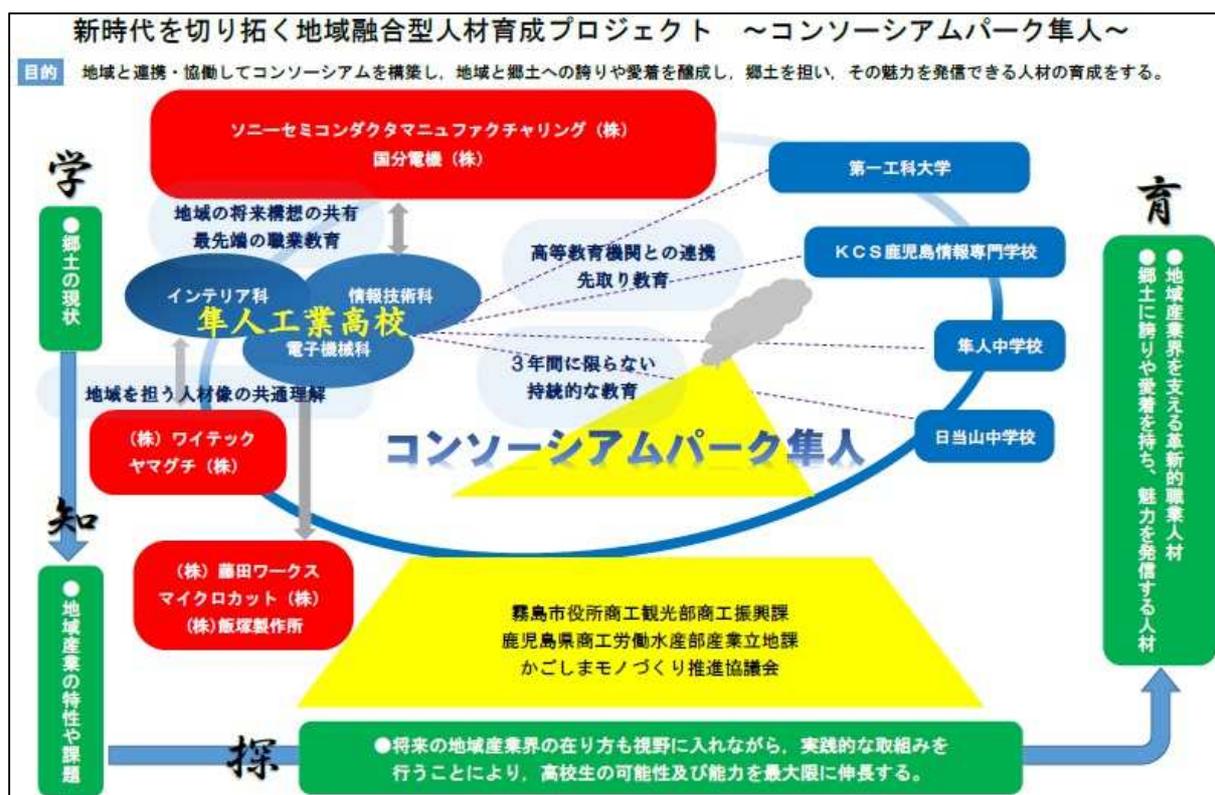
### (3) 期待される効果

ア 地域の持続的な成長を支える職業人の育成を担うことができる。

イ 社会に開かれた魅力ある高等学校づくりの促進。

ウ 生徒一人一人の企画力・実践力が向上し，個別最適な学びと協働的な学びを実現することができる。

(4) イメージ図



3 事業の経過

日	内 容	参 加 者
4 月		
8	学校安心メール協賛 (ヤマグチ(株))	
12	高専連携eラーニングによる資格取得サポート (KCS鹿児島情報専門学校)	情報技術科
24	建築設計競技に係る出前授業Ⅰ (県建築士会)	インテリア科3年
26	進路講演会 (麻生専門学校)	1年生
5 月		
17	中学校への出前授業 (霧島中学校) 文鎮製作・AIの体験学習	電子機械科 情報技術科
22	建築設計競技に係る出前授業Ⅱ (県建築士会)	インテリア科3年
下旬 ～	近隣中学校への学校紹介	担当教員
6 月		
6	第1回コンソーシアム代表者会議	コンソーシアム

18	霧島で働く魅力発見！企業見学会 (ヒロセ(株), ヤマグチ(株), (株)藤田ワークス マイクロカット(株))	3年生就職希望者
7月		
2	かごしまモノづくり推進協議会総会出会	学校長他教員
24	協働製作：鹿児島イルミネージュデザイン SDGs products(株)	美術部
8月		
22	中学生一日体験入学	全学科
22	スキルアップセミナー	希望者1名
9月		
5 6	進路事前学習会	全学科学年
18 20	企業見学 ((株)九州タブチ, 国分電機(株)) 上野原縄文の森, (株)藤田ワークス	電子機械科2年
25	出前授業 (マイクロカット(株))	電子機械科2年
10月		
3	校内現場見学会 ((株)カミゾノ電気)	電子機械科1年
24	工業高校生のための県内企業等説明会 (鹿児島県, 21社)	2年生
11月		
6	出前授業 (大崎町ICT支援委員)	情報技術科
15	地区専門高校フェスタ	中学生, 地域住民
20 21	企業内実習 (マイクロカット(株))	電子機械科2年2組
22	出前授業 I (SDGs products)	情報技術科1年
28	中学校への出前授業 (牧園中学校)	電子機械科 情報技術科
12月		
4 19	企業内実習 (マイクロカット(株))	電子機械科2年1組
6	出前授業 II (SDGs products)	情報技術科1年
6	企業見学 (スマイルビルダーズ住宅展示, MECIndustry(株))	インテリア科1年
11 12	出前実習 (鹿児島県管工事業協同組合連合会・会員)	電子機械科1年

18	協働製作：黒酢ラベルデザイン (有)ファームランド櫻島, (有)重久盛一酢醸造場	美術部
19	企業見学 (ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株), (株)アルバック九州, (株)ユピテル)	情報技術科 2年
25	出前実習 T i g 溶接 ((株)藤田ワークス)	電子機械科職員
1月		
15	品質管理に係わる出前授業 (キリシマ精工(株))	電子機械科 2年
21 23 24	課題研究発表会	インテリア科 電子機械科 3年 情報技術科
28~ 31	インターンシップ	2年生
2月		
6, 12	企業内実習 ((株)藤田ワークス)	電子機械科 2年
12	課題研究発表会 & 進路発表会	電子機械科
13	企業見学 ((株)ワイテック鹿児島センター, M B C ハウジングフェア住宅展示場)	インテリア科 2年
13	第2回コンソーシアム代表者会議：報告会	コンソーシアム
~16	協働製作・展示：鹿児島イルミネージュ初午祭 神宮通り会, SDGs products(株)	美術部・他
3月		
19	出前授業 (フェニテックセミコンダクタ(株))	電子機械科 1年・2年

## 4 事業の内容

### (1) 外部講師による出前授業等

多くの企業・団体の方が講師として来校し、出前授業をしてくださった。公益財団法人鹿児島県建築士会より建築設計競技に向けて講師（図1）を派遣していただき、実践的な内容をインテリア科の生徒が2回に渡り学んだ。



図1 出前授業：建築設計



図2 出前授業：精密加工技術

また、電子機械科ではマイクロカット株式会社の杵田悟氏、越智洋氏、深津衣里氏（図2）に来校していただき、業界の情勢や得意分野の精密加工の話だけでなく、産業人としての生き方なども示唆していただいた。情報技術科では曾於郡大崎町ICT支援委員の黒松孝紀氏（図3）を講師に招き、システムエンジニアとしての経験と技術を生かし、アプリケーションの学習やプログラミング実習など実践的な学習を行った。また、SDGs Products中島寛之氏には、現在大きな流れであるDXアーキテクトの概念・構築手法だけでなく実習も行い、生徒への理解を深めていただいた。さらに、電子機械科の2年生が3月に受検するQC検定の内容をキリシマ精工株式会社西重潤一氏・早田忠司氏（図4）にしていただき、これから検定を受けるにあたって、現場のリアル感も含めよい意識付けになった。他にも多くの企業・団体の協力のもと各産業界の将来のあり方や特性、課題について学ぶ機会をいただいた。



図3 出前授業：プログラミング学習



図4 出前授業：品質管理

## (2) 校外企業実習・企業見学等

電子機械科ではマイクロカット株式会社（図5）、株式会社藤田ワークスの協力のもと企業の中での実習を行った。実習班ごとに各工場に行き現場の機材を使用して、企業の方から直接指導していただいた。学校の実習でも使うマシニングセンタやNC旋盤などでも、より実践的な使い方を経験したり、学校にはない最先端の工作機械や測定装置を体験できたりと有意義な実習となった。ま

た、インテリア科ではMEC Industry（図6）の見学で学校では見ることのできない実際の建築物の部材の加工・組立など規模の大きな工程を経験することができた。最先端で活躍する企業と学校が一緒になってやることにより次世代に向けた人材育成の可能性を広げることができたと考えている。さらに、1月末には2年生全員が44箇所の企業・事業所でのインターンシップも実施し、進路選択の意識向上に役立った。



図5 企業実習：精密測定器



図6 企業見学：建築部材加工

### (3) 校内での実技指導等

鹿児島県管工事業協同組合連合会（図7・8）のご協力により、電子機械科を対象に校内での実技指導を実施した。実際の技能検定の実技試験に基づいた内容で、生活の中でどのように活用されているかなども学習しながら、工具の使い方、加工方法、組立方など生徒4名に対し指導者が1名ついて、丁寧に指導していただいた。また、社会生活の基盤・ライフラインを担っており、昨今の災害対応などの話もしていただいた。さらに、本校卒業生（図9）から高校生活をどのように過ごせば今後社会で役に立つかなど示唆していただいた。株式会社藤田ワークス西田龍也氏、瀨畑秀敏氏、卒業生でもある横山航矢氏（図10）のご協力で職員向けのTIG溶接の実技講習をしていただいた。一般的には屋外の構造物によく利用されるステンレスやアルミニウム合金などの溶接に使用される内容の講習で、今後、校内や地域の要望のあるものを課題研究等で製作するのに必要な技術で、先ず職員が修得することによって、生徒達へ展開していければ、より質の高い製品ができるようになると考えている。



図7 校内実技指導：熱交換のしくみ



図8 校内実技指導：技能士実技問題



図9 校内実技指導：卒業生講話



図10 校内実技指導：TIG溶接

#### (4) 中学校への出前授業等

中高連携講座として、霧島中学校、牧園中学校で出前授業を行った。電子機械科（図11）では文鎮製作を行い、やすり掛けやねじ切りなどの基本的な手仕上げ加工を体験してもらった。情報技術科（図12）は中学校のパソコンを活用して、マイクロビットを使ったプログラミングの基礎学習を行った。専門高校の各学科の特色の一端だけでも感じてもらうことができたと確信している。

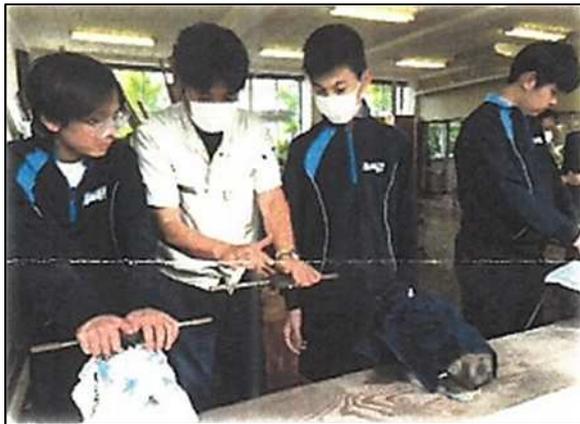


図11 中学校への出前授業：電子機械科



図12 中学校への出前授業：情報技術科

夏休みに実施した中学生一日体験入学では各学科の説明（図13）をしたのち、インテリア科（図14）ではイラストレータの体験と製図、電子機械科（図15）では電気工事の配線体験と機械加工の見学、情報技術科（図16）では3Dモデリング体験を行った。いずれも本校生徒が指導・説明を行ったが、事前の学習だけでなくプレゼンテーションを含め表現する力を身に付ける良い機会となった。また中学生からも、直接本校生徒から、学校・学科の内容の説明を聞いたり、体験ではやり方などのアドバイスをもらったりで高校生活や高校の雰囲気を知ることができて、好評だった。



図 13 中学校体験入学：学科説明



図 14 中学生体験入学：インテリア科



図 15 中学校体験入学：電子機械科



図 16 中学生体験入学：情報技術科

(5) 「スキルアップセミナー」

今回郷土教育推進事業を実施する高校で学ぶ生徒を対象に、大学において実践している地元企業や自治体等との「産学連携」を学ぶことにより、起業家精神の育成や大学・企業等の魅力を発見させ、鹿児島で働くことや暮らすことの意識を醸成する趣旨で、鹿児島国際大学で「鹿児島レブナイズと学ぶ！プロスポーツビジネスの舞台裏」の講座（図 17）に参加した。残念ながら本校の中学生一日体験入学の日と重なり、一人しか参加することができなかった。しかし、日頃接することのないスポーツビジネスの世界に触れることができ、積極的に発言等（図 18）して貴重な体験をすることができた。



図 17 スポーツビジネスマネジメント

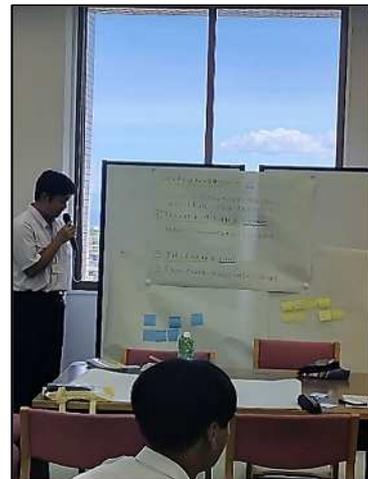


図 18 セミナー：発表風景

## (6) 高等教育機関との連携

KCS鹿児島情報専門学校と高専連携協定を締結し、eラーニングでの資格学習をサポートしていただいた。ITパスポート試験に対する学習や授業の中で活用させていただいた。

## (7) 地域交流・ボランティア等

毎年7月最終土曜日に開催される隼人駅前通り会による「隼人駅前夏祭り」にボランティアとして参加した。夜店等業者を入れず手作りのお祭りである。テント20張り、長机、椅子、提灯等の設営を行い、抽選会の商品の袋詰め(図19)で飲み物6000本を詰めるのは大変な作業だったが、町内会の方々と楽しく作業することができ、地域の活性化につながったと考える。

また、本校グラウンドで本校野球部生徒が、国分北小学校の軟式野球チームに対して野球教室(図20)を行い、好評を得ている。軟式野球チームの監督が本校のOBであり、地域の活性化を担っていることを考えると、この地域の小学生が将来の高校選択の際に本校を選ぶきっかけになれば、地域を担う人材の育成の裾野を広げることにもつながると考える。



図19 地域交流：夏祭り運営



図20 地域交流：野球教室

## 5 事業の成果とその評価

### (1) 成果

本事業は長期のスパンで考えて行くべき趣旨のものであり、最終的な成果の指標は、地元で働き生活し地域を支える人材の数が増えることであると思うが、単年度レベルで増加の成果を出すのは難しい。しかし、これまでのように学校内だけで学習・教育を完結する人材育成システムでは、もはや対応できなくなっているため、産学官が連携して人材をどのように育成していくかを共通理解し、産業構造の大きな変化と技術革新の進化に対応した人材育成を知恵を出し合い進めていく時期にあると考えており、この「新時代を切り拓く地域融合型人材育成プロジェクト」のような事業が、今後益々重要な取組になっていくことは間違いない。この事業を機に、多くの企業や地域の方々との接点が増え、しかもお忙しいなか、本校生徒のために多くの時間と労力をそそいでいただき、い



この結果が以下ようになった。

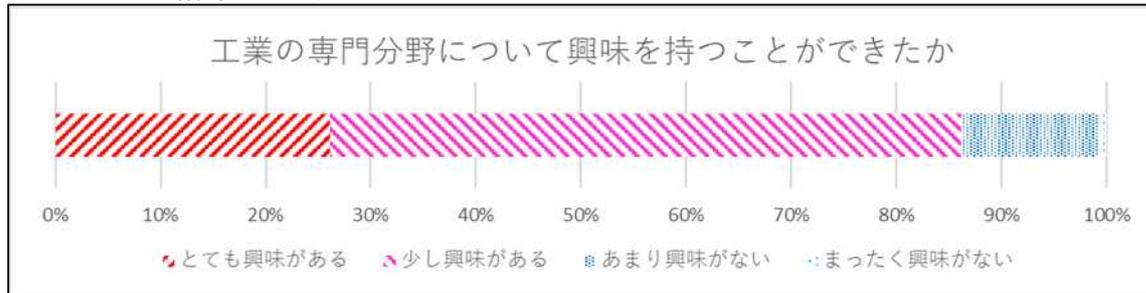


図 21 アンケート：専門分野への興味を持つことができたか

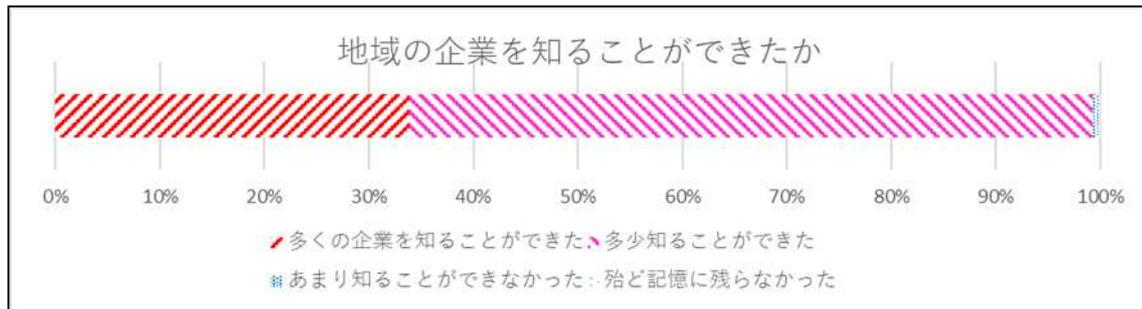


図 22 アンケート：企業を知ることができたか

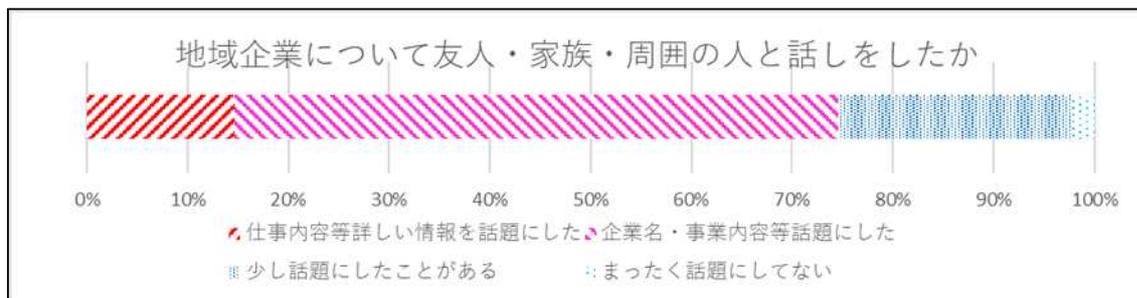


図 23 アンケート：地域企業について話をしたか

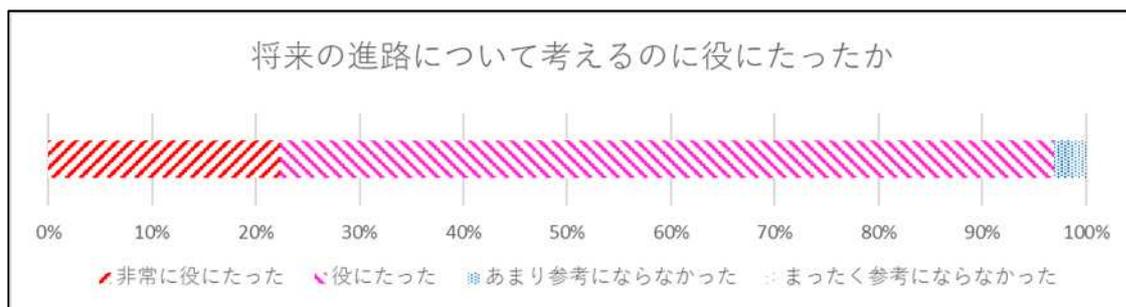


図 24 アンケート：進路について考えるのに役にたったか

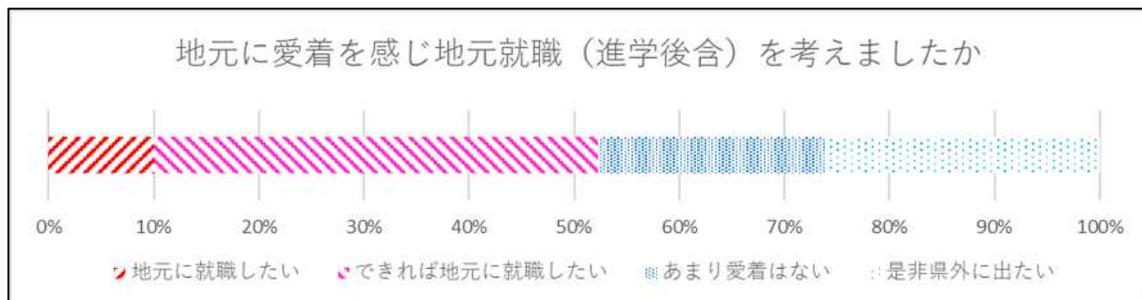


図 25 アンケート：地元就職を考えますか

専門分野への興味は「とても」「少し」を合わせると86%（図21）に及び工業高校で興味を持って取り組んでいることになる。また、今回の事業等を通じて地域の企業を「多く」「多少」知ることができたと感じている生徒がほぼ全員（図22）という結果がでた。それらの企業の話周囲の人としたことがあるかという質問には75%の生徒が周囲に話しをして興味を持つことができ、進路選択にも役にたったと感じている生徒が97%（図23）に達している。これらを見ると今回の事業で、いろいろな企業と接したことが、進路選択を考えるなかでプラスになっていることは間違いない。

この事業の目指すところでもある地域企業への就職へプラスになっているかについては、地元就職したいという生徒は「できれば」まで入れて52%（図24）で、はっきりと効果があったということは言えない状況である。また是非県外に出たいという生徒のほとんどは、いわゆる「都会への憧れ」のようなことを理由に挙げている。このことを考えると、住んでみて心境の変化が出てきて、将来的にこの事業の経験が生かされる日が来るかもしれない。そのような意味でも短期的な結果をもとめるものではないが、確実に影響は与えていると考えている。

## 6 今後の課題

学校行事や企業等側の予定などから、日程調整などに多くの時間を割く場面も見受けられた。学校側は対象生徒をまとめて実施したいが、受入側は職場に大人数の受入は難しい部分が多く、複雑な日程を組まざるおえないところがある。

また、現在2年生を活動の主体としているが、修学旅行などいろいろな行事と重なり、日程的に厳しいところがある。もう少し内容に応じて、対象学年を分散していくことも考える必要があるかもしれない。

現在事業の予算で交通費等捻出しているが、その後のことを想定して、内容、やり方等方向性を今のうちに産学官で考えながら取り組んでいく必要がある。

## 7 協働先一覧

No	協働先	所在地	主な内容
(1)	株式会社藤田ワークス	霧島市	実習指導・出前授業
(2)	マイクロカット株式会社	霧島市	実習指導・出前授業
(3)	株式会社飯塚製作所	始良市	企業案内
(4)	ヤマグチ株式会社	霧島市	企業案内
(5)	株式会社ワイテック	鹿児島市	企業見学
(6)	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社	霧島市	企業見学

(7)	国分電機株式会社	霧島市	企業見学
(8)	キリシマ精工株式会社	霧島市	出前授業・職業体験
(9)	九州タブチ	霧島市	企業見学
(10)	フェニテックセミコンダクタ株式会社	湧水町	出前授業
(11)	株式会社ユピテル	霧島市	企業見学
(12)	株式会社アルバック九州	霧島市	企業見学
(13)	第一工科大学	霧島市	高大連携
(14)	K C S 鹿児島情報専門学校	鹿児島市	高専連携
(15)	霧島市立隼人中学校	霧島市	体験授業
(16)	霧島市立日当山中学校	霧島市	体験授業
(17)	霧島市立牧園中学校	霧島市	体験授業
(18)	鹿児島モノづくり推進協議会事務局	鹿児島市	事業支援
(19)	霧島市役所商工観光部商工振興課	霧島市	事業支援

## 8 その他

最後に、ある程度計画に基づいてこの事業に取り組んでいるところだが、まだまだ走りながら考える部分も多く、関係者の皆様にはご迷惑をかける場面も多かったと思う。しかし、それらを通じてこれまで以上に対話したことが財産になっていると考える。本事業に携わった各所の関係の方々からのご指導ご助言に深く感謝申し上げます。

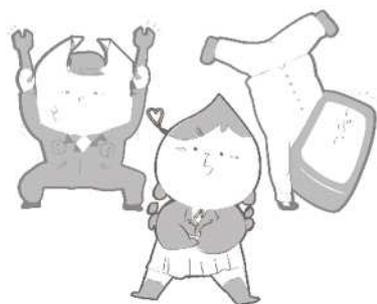


図 26 マスコットキャラクター



図 27 校舎から高千穂・韓国岳を臨む